

今回は、電子黒板について紹介します。電子黒板は、大型のスクリーンにパソコンやカメラから映像を投影し、その投影画面に直接書き込むことができるプロジェクターです。このプロジェクターを普通教室にそれぞれ2台設置します。デジタル教科書や資料を提示するのはもちろんですが、生徒のパソコンから転送されたデータを複写し、その画像を利用した授業ができます。また、テレビ放送や校内放送の映像を映すなど、多様な使い方ができるようになっています。メディアセンター内視聴覚室、理科室(1・2・プレゼンルーム)、音楽室2には大画面の電子黒板を設けています。視聴覚室やプレゼンルームは調べ学習の発表の場として、理科室1・2ではカメラと連携して実験などの細部の状況を映し出すことも可能。音楽室では映像とオーディオ装置を連携させることもできます。

特別支援教室には、小集団学習にも対応できるよう移動式の電子黒板を採用しました。他にも各階に1台ずつ移動式電子黒板を配置し、生徒の多様化する使用形態に柔軟に対応できる環境となっています。

浜中図鑑は今回で連載終了です。2月号では、内覧会についてご案内しますので、ぜひお越しいただき、新しい中学校をご覧ください。



イメージ図

照 会 教育総務課 ☎0537-8733

Atomic

暮らしと原子力

関係機関が原子力災害対応の
連携訓練を実施

市と市消防本部、御前崎海上保安署、菊川警察署、中部電力(株)の関係機関は9月11日、浜岡原子力発電所の原子力災害を想定した連携訓練を実施し、約60人が参加しました。この訓練は、万が一の原子力災害に備え、地域の災害応急活動を複数の組織が連携して迅速かつ的確に実施できる体制の強化を目的に、2017年度から実施しているものです。今回は、菊川警察署が初参加しました。

訓練は、市内で震度6の地震が発生し、浜岡原子力発電所内で事故が起きたことで、全ての住民が避難するという事態を想定しました。自力で避難できない住民は、一時集合場所(佐倉地区センター)に集まり、搬送車両に乗ってパトカーの先導で御前崎港まで移動。その後は海路で避難地を目指しました。各関係機

関はそれぞれの役割分担の確認や連携手順を検証し、「搬送車両へ乗車する際の新型コロナウイルス対策」などの課題も洗い出すことができました。

市は、訓練の結果を踏まえて一時集合場所のマニュアルを整理するとともに、今後も関係機関と連携を図りながら災害時対応の実効性を高めていきます。



▲港に到着し巡視船に乗り込む様子



▲一時集合場所から車両で港へ移動する様子